



写真で振り返る略歴

プロテニス選手 (2022年4月~)

ナショナルチーム日本代表 (ネクストジェンチーム)

日本テニス協会 アスリート委員会副委員長

1999年4月12日生まれ (23歳)

羽澤慎治

<ランキング (2023年初) >

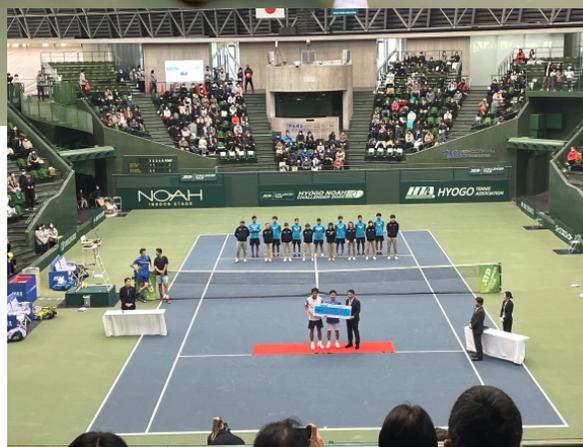
	世界	日本
シングルス	537位	15位
ダブルス	303位	6位

ATPチャレンジャーツアー

兵庫ノアチャレンジャー

2022年11月 (23歳 ; プロ1年目)

ダブルス 優勝



シングルス ベスト8



1回戦 J.DUCKWORTH選手
(155位;豪州)に勝利



2回戦 中川選手
に勝利

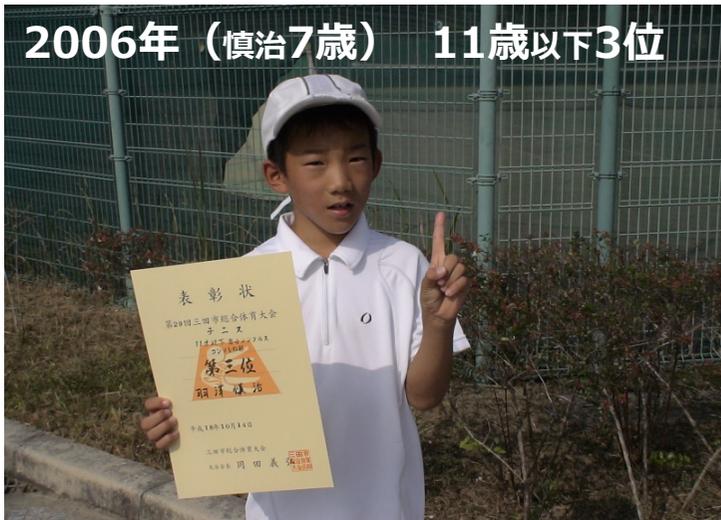
QF SILVA選手
(201位;POR)
に惜敗



<ジュニア時代>

・三田市総体

1999年4月 三田生まれ
三田育ち



【それ以降の三田市総体の結果】

2008年（慎治9歳）	11歳以下	優勝
2009年（慎治10歳）	13歳以下	優勝
2010年（慎治11歳）	15歳以下	優勝
2012年（慎治13歳）	17歳以下	優勝

全国高校総体（インターハイ）テニス団体 優勝 2015年8月（16歳；高校1年）

高校時代の実績（その1）

相生学院 女子

テニス団体兵庫勢が快挙

西宮甲英 男子

初出場、無欲の栄冠

白藤 (4-6) 鈴木 (6-7)	清水 (6-3) 島袋 (4-6)	白藤 (6-2) 春原 (6-2)
羽沢 (6-3) 大橋 (3-6) 谷川 (6-2)	トウロ (6-3) 今村 (7-6) 清水 (6-4)	羽沢 (6-3) 今村 (7-6) 清水 (6-4)

【男子】団体連決勝
西宮甲英の選手たちは、「練習でも打てたことがまた分からなくて」と白藤主将。テニス男子団体で初出場初優勝。戸惑う選手の姿が快挙を物語った。

1、2年生のみの布陣。「チャレンジャーとして向かっていける」と無欲で戦い、勝ち進むうちに勢いに乗った。決勝のダブルス第1セットのタイブレーク。セットポイントで相手が触れることもできない強打を放った羽沢は「練習でも打てたことがまた分からなくて」と白藤主将。テニス男子団体で初出場初優勝。戸惑う選手の姿が快挙を物語った。

阿形監督は「個人戦では学べないものもある」と希望者には学校部活動の団体戦を勧めた。

準決勝の勝負の懸かった第1シングルスで、全日本ジュニア選抜室内選手権覇者の島袋（四日市工）を破った1年生清水は言う。「責任を感じてプレーしたことで精神的に強くなった。仲間と一緒の優勝は、自分一人だけの優勝よりうれしさが増します」

（永見将人）



感じてプレーしたことで精神的に強くなった。仲間と一緒の優勝は、自分一人だけの優勝よりうれしさが増します」

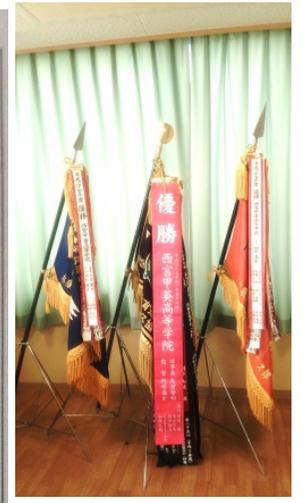
（永見将人）

テニス男子団体決勝 清風ベアを破った西宮甲英の羽沢（右）、トウロ（左）は、北村も大阪府マリンテニスパーク

てきた。昨夏の県総体、ライバル園田戦のマッチポイントでリターンミス。そこから流れを失い、優勝を決めた相生学院のち込んできた。6月の近畿選抜大会では5ゲーム差を巻き返す逆転勝ち。今大会も

2015 in 近畿
全国高校総体
第8日

第8日は4日、大阪市マリンテニスパーク北村などで10競技が行われ、テニス団体決勝の西宮甲英（兵庫）が清風（大阪）を2



©TennisMagazine/SHINJI OYAMA

岩手国民体育大会（国体）テニス競技 少年男子 優勝

高校時代の実績（その2）

2016年10月（17歳；高校2年）



世界4大ジュニア大会
2017年1-9月（18歳；高校3年）

高校時代の実績
(その3)

